

2020年度予算案

震災直後除き **過去最大規模**

4年連続の増 5次総の投資的経費のピーク年

石井市長の任期折り返しとなる 2020 年度の予算案が発表されました。一般会計は 4 年連続となり、阪神淡路大震災直後を除く過去最大の規模で、今年度から始まった 10 か年の第 5 次西宮市総合計画において、投資的経費が最も増える年になっています。

歳出では第二庁舎の整備費や春風小、西宮養護学校建て替え費用、幼児教育・保育の無償化の通年での実施で増額となるなどで、大きく増える予定となっています。また、国民健康保険料引き下げのために一般会計からの繰り入れが減額され、後期高齢者医療保険料の引き上げも予定されています。

2020年度予算総額				
	2020年度	2019年度	増減額	増減率%
一般会計	1930.80億円	1840.73億円	90.07億円	4.00%
特別会計	886.41億円	876.32億円	10.08億円	1.20%
企業会計	474.22億円	474.66億円	△44百万	△0.1%
総計	3291.44億円	3191.73億円	99.71億円	3.10%

ル跡地購入で、西宮土地開発公社に貸し付けた 55 億円が新年度末に戻ってきますが、全体に投資的経費が増えることから基金を 78 億円取り崩す予算となっています。

* 例年、予算編成時には財源不足を予測して基金(貯金)を取り崩す案としていましたが、決算では取り崩さず、むしろ基金を積み増してきていました。しかし、2019 年度決算時には大幅な基金取り崩しが必要との認識が示されています。それでも 2019 年度末には 200 億円を超える基金残高が見込まれることから、「お金がない」というのは通用しません。

* 投資的経費は第二庁舎建設分で 35 億円、春風小や養護学校整備などで 9 億円、西宮消防署建て替えや西部総合処理センターの設備修繕などでも 11 億円と、大幅に増えています。今後は中央体育館や陸上競技場整備など、大型の施設設備も続く予定となっています。

* 歳入の根幹である市税は、個人市民税や、家屋新增築増で固定資産税・都市計画税が 8 億 4000 万円増えるものの、国の法人税率引き下げにともなって法人市民税が 4 億 5000 万円減収となる見込みとなっており、市税全体では 0.5%の伸びにとどまる予定です。

* 市民病院と県立病院との統合のためのアサヒビー

**2020 年度医療保険料
後期高齢者値上げ、
国保もアップの可能性!!**

西宮市では国民健康保険料引き下げのため、一般会計からの繰り入れを行っています。2018 年 4 月からは都道府県が「財政運営の主体」(都道府県化)となり、国は県を通じて各自治体に繰り入れをやめるように圧力をかけ、原則として 6 年以内に繰り入れを削減、解消する計画を策定するよう求めています。その結果、新年度は長らく続けて

きた 7 億円の一般会計からの繰り入れを 1000 万円減らして、6 億 9000 万円とする予算を提案しています。

毎年値上がりする国民健康保険料の高さは全国的問題となっており、先日、党議員団で視察に行った東京の昭島市では、家族が増えるほど保険料が引き上がる均等割りの軽減(18 歳未満の子ども)を行なっていました。西宮市でも均等割りの減免・軽減制度の導入が急がれます。

また、後期高齢者医療保険については、2 年に一度の保険料率改訂年となっており、1 人当たり平均 82,186 円から、85,517 円へと値上がりになることが提案されています。

高齢者交通助成制度見直しへ 鉄道事業者が難色を示す

高齢者交通助成制度は、毎年4月1日において①満70歳以上に達していること②1年以上本市に住所がある又は、居住している人に、交通助成割引購入証(1,000円×5枚)を発行し、各交通機関(電車、バス、タクシー)の回数券の購入やICカードのチャージに助成する制度で、高齢者に喜ばれています。

この事業を実施するには、交通事業者の協力が不可欠ですが、鉄道会社では近年、駅の自動化をはかり職員の削減を進めている中で、今後の協力は困難だと難色を示しています。そこで市は、2020年度は半額助成から全額助成に変更して、利用者に使いやすくし

ますが、JRと阪神電鉄は2020年度限りの対応となりました(阪急は対応せず)。したがって市では、2021年度より高齢者の社会参加を促進し、健康寿命延長につながる新たな施策を検討するとしています。



今津文協保育所の閉園やめよ

今津文協保育所は、2007年7月の西宮市立保育所民間移管計画で民間移管対象となっていました。この保育所は築50年を超え耐震の点でも建て替えが必要ですが、廃園予定であることから、建て替えせず近く「廃園」との方針が示されました。

市は公立保育所の民間移管については、待機児童数の減少に定員の弾力化率低下時期に移管するとしていましたが、しかし、待機児童は2007年当時より増えており、市は2025年までに約千人の受け入れ枠の拡大が必要と試算しています。廃園でなく民間移管計画こそ廃止すべきです。

国いいなりマイナンバーカード普及予算も

国は9月から、スマートフォン利用者で、かつマイナンバーカードを持っている人のみに、上限5,000円分のポイントを支給するマイナポイント制度を導入しようとしています。プレミアム商品券のマイナンバーカード版のようなもので、今回はそのためにかかる経費が市の予算案に計上されています。マイナンバーカードが普及しないのは、国民が必要を感じていないことやデータ漏洩などの懸念があるからであり、国いいなり施策は問題ではないでしょうか。

新年度予算案

こんな事業・施策も



※ 新規事業→[㊦]
それ以外は 継続事業

住環境・自然環境

- ㊦公園リニューアル事業…整備後30年以上の公園について順次バリアフリー対応等、再整備
新年度：学文殿公園(測量・実施設計等)
- ・西宮浜総合公園整備…遊びの広場、北多目的広場整備
- ・臨港線～御前浜入口までの車道、歩道整備
新年度：既設防潮堤取り壊し

子ども・教育

- ㊦中学校体育館に空調設備設置
- ・北夙川保育所移転建替(耐震対策)
- ・認可外保育所整備事業への補助
- ・認可外保育施設使用料補助増額…認可保育所を申し込んだが入所できず認可外保育所を利用する際の利用料一部補助を、0～2歳月額55,000円→7万円、3～5歳5万円→6万円
- ・生瀬幼稚園を生瀬小内に移転。園は市有地公募型で法人が認定子ども園として運営。
- ・西宮養護学校(2021年度完成予定)、春風小(2020年度冬完成予定)、安井小(2023年度完成予定)、瓦木中建て替え(2024年度完成予定)

福祉・健康・共生

- ・放課後キッズルーム事業…放課後に運動場や教室を利用した居場所提供。新年度：6校で実施
- ・あすなろ学級(社会的自立をめざす不登校児童生徒支援施設)の3か所目を、瓦木幼稚園跡地に設置
- ・就学援助の入学準備金引き上げ
小学校 40600円→50600円 中学校 47400円→57400円
- ・認知症の初期段階から6カ月間集中的に支援する専門家チームを1チーム→2チームへ
- ㊦産婦健康診査助成…産後うつ予防、虐待防止のため産婦1人につき2回を上限に1回5,000円の費用助成
- ㊦骨髄等移植ドナーの休業による経済的負担軽減(助成)
- ㊦スモークフリーにしのみや促進事業…禁煙外来治療助成など

環境・都市基盤、安全・安心

- ㊦都市農地保全・活用促進事業…宅地化防止へ、農地所有者訪問とサポート。市民農園開設整備への費用補助
- ㊦ごみステーション用折り畳み式ネットボックス購入費補助
- ㊦粗大ごみ収集受付をLINEで24時間365日対応とする
・西宮消防署建て替え 新年度：建設

政策推進ほか

- ・(仮称)越木岩センター整備 新年度：基本構想策定
- ・大箇市民館移転建替、甲陽園市民館アスベスト調査
- ㊦公共施設にフリーWi-Fi環境整備。新年度：10数か所
- ㊦オリンピック・パラリンピック聖火リレー、パブリックビューイング